

経済マンスリー [原油]

エジプト情勢緊迫の影響をどうみるか

原油価格 (WTI 期近物) は、6 月後半は 95 ドル近辺の狭いレンジで推移したが、7 月に入ると、エジプトの情勢緊迫を受けた地政学リスクの高まりや米国の原油在庫減少を背景に大幅上昇し、3 日には 101.24 ドルとなった (第 1 図)。100 ドルを超えたのは 2012 年 5 月以来である。その後も上昇し、10 日以降は 106 ドル台の高値圏で推移している。

エジプトでは 2011 年 2 月、反政府デモにより当時のムバラク政権が崩壊した。大統領選挙を経て 2012 年 6 月にモルシ大統領が誕生したが、経済の低迷が続くなか国民の不満は高まり、今年 6 月 30 日以降、モルシ大統領の退陣を求めるデモが拡大した。7 月 3 日、軍の介入によりモルシ大統領は解任され、4 日に Mansour 暫定大統領が就任、16 日に暫定内閣が発足した。しかし、モルシ前大統領派の抗議行動が続くなど依然として政治・治安情勢は混迷している。

原油市場にとって最大の懸念は、エジプトが抱えるスエズ運河とスメド・パイプラインに支障が生じるか否かである。これらは中東から欧州への重要な原油輸送ルートであり、仮に情勢緊迫により封鎖されれば、南アフリカの喜望峰回りの迂回ルート利用を余儀なくされ、輸送の期間長期化およびコスト上昇が必至となる。

なお、エジプトの産油量は日量 73 万バレルと、主な中東産油国と比べて産油量は少ない (第 2 図)。産油国としてのエジプトの影響力は限定的であり、国際的に重要な輸送ルートを持つ国としての存在感が大きいといえよう。

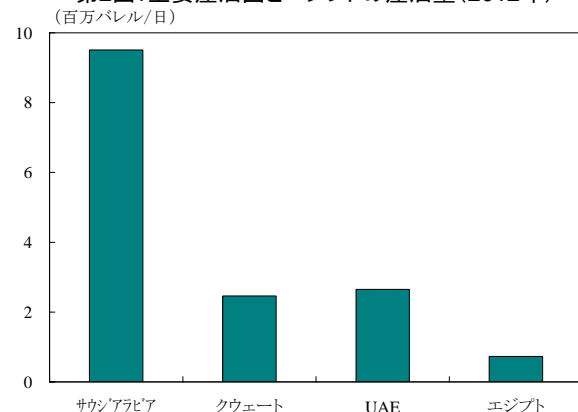
これまでのところ、スエズ運河とスメド・パイプラインは平常通り稼働しており、供給への影響は出ていないが、エジプトの情勢混迷は当面続くとみられており、原油価格の押し上げ要因になると見込まれる。

第1図:原油価格 (WTI期近物)の推移



(資料) Bloombergより三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

第2図:主要産油国とエジプトの産油量 (2012年)



(資料) IEA資料より三菱東京UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱東京 UFJ 銀行 経済調査室 石丸 康宏 yasuhiko_ishimaru@mufg.jp
篠原 令子 reiko_shinohara@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、金融商品の販売や投資など何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当室はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されております。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。また、当資料全文は、弊行ホームページでもご覧いただけます。